

季刊マーメイド

逗子市立図書館報

第12号

2016年5月1日発行

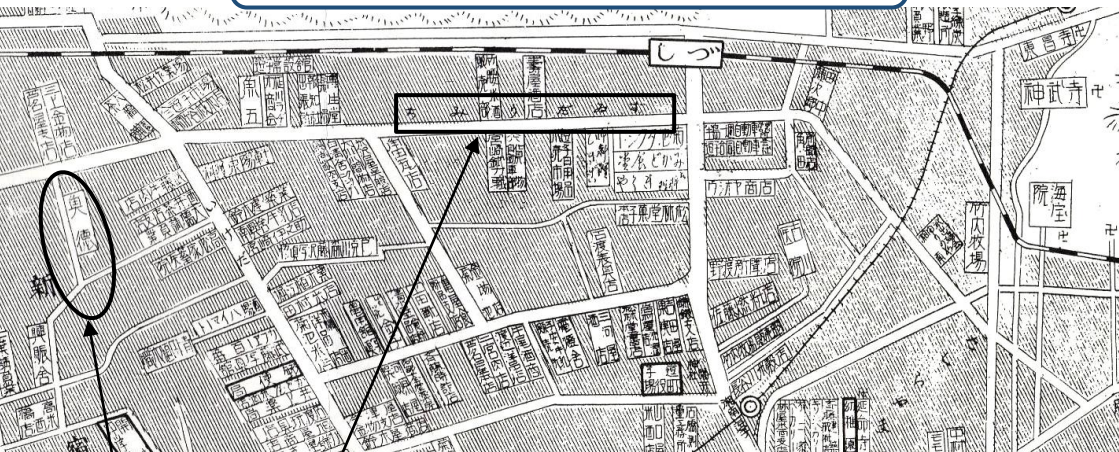
逗子市立図書館

逗子市逗子 4-2-10

046(871)5998

<https://www.library.city.ushi.lg.jp>

逗子の水道の話



「すみだうみち」

この辺りが堀田善衛の逗子の最初の住居と思われる。

昭和初期の逗子町

『昭和前期日本商工地図集成 第1期』より
『明治大正昭和年表—逗子の三代史—』の
後ろ見開きにも同じ地図あり

逗子の「水道みち」

これは、昭和8年発行の逗子の商工地図です。横須賀線に沿って走る道に「すみだうみち（水道みち）」と書かれています。本多秋五（文芸評論家・昭和22年以来逗子に住んだ）が堀田善衛について書いた一文にも、「水道みち」は登場します。

彼が逗子へ引越してきたのは、年譜を見ると昭和二三年秋のこととある。あれが多分最初の住居だったろう、横須賀線と大体平行に走っている水道道という通りを、逗子駅から鎌倉の方へ五〇〇メートルほど行ったところにある、魚徳という魚屋の二階が眼に浮かぶ。
（「近くて遠い隣人―大仏次郎賞を受賞した堀田善衛君」『本多秋五全集 第13巻』より）

地図を見ると、「魚徳」は今のな
ぎさ通りを過ぎ、池田通りの交差
点の先にあります。現在「水道み
ち」といえばJR逗子駅から東逗子
駅あたりまでの道を指しますが、
以前はより長い範囲を「水道みち」
と呼んでいたようです。

横須賀軍港水道

なぜ「水道みち」と呼ばれてい
るのでしょうか。この道は、横須
賀の旧海軍が水道管を敷設するた
めに造ったからです。起点を県央
の相模川支流・中津川近くの現・
愛川町の半原（はんばら）、終点を
現・横須賀市の逸見（へみ）浄水
場とする「横須賀軍港水道・半原
系統水道みち」で、逗子の「水道
みち」はこの一部分なのです。

旧海軍は横須賀造船所に水を供
給するために、明治9年に現・横
須賀市の走水（はしりみず）を水
源として水道を敷設しました。日
露戦争の後、軍港として益々発展
する横須賀で、水がさらに必要と
なりました。そこで、水量が豊富
で水質良好な中津川が水源として
選ばれ、新たに水道を敷設するこ
とにしたのです。

横須賀軍港水道・半原系統水道みち

- ・半原水源池～逸見浄水場の53km
- ・水源（標高129.2m）と浄水場（標高58.0m）の約70mの高低差を利用した自然流水
- ・愛川、厚木、海老名、綾瀬、藤沢、鎌倉、逗子、横須賀を通る直線に近い道筋
- ・明治45年工事着手、大正10年完成
- ・総工費約384万円

水道敷設工事は明治45年に水
源の半原から始まり、大正3年頃
に逗子の部分の工事が行われまし
た。一般の交通使用や車道化も許
可され、逗子の道の発展の一助と
なりました。舗装されたのは、「長
靴のいらぬ町づくり」を合言葉
に始まった市制施行以降です。

軍港水道の遺構



昭和29年頃の「水道みち」
道幅も狭く舗装されていない

鎌倉方面から逗子市内の「水道
みち」をたどってみました。市境
の名越トンネルを抜け、逗子ト

ネルを出て振り返ると、右手に立ち入り禁止区域があります。奥に赤レンガ造りの坑門のトンネルが見えます。名越切通しを抜ける「名越管路隧道」別名「名越送水管路ずい道」です。これは送水能力を上げるために、昭和6年頃、当初の導水管の北側低地に新たにトンネルを掘り、敷設替えしたものです。

逗子駅方面に道を直進し、「なぎさ通り」、JR逗子駅前を過ぎると今でも「水道みち」と呼ばれている通りに入ります。すぐに道端に



コンクリート製の角柱が見つかります。

「山形二条マーク 海」と彫られています。これは旧海軍の境界を示す標柱です。地面に埋もれてい



局の標柱もあり

ります。戦後、

軍港水道の施設

は旧海軍から

横須賀市に移管されたためです。

東逗子駅に到着するまでの間、海

軍の標柱と水道局の標柱が随所に見られます。道もまっすぐで、「水

道みち」という名前と共に、造られた当時の様子もよく残されているように思われます。

沼間交番前で県道24号線に入り、アーデンヒル入口の交差点に

着きます。図書館分室のある沼間

コミュニティセンターの隣り、現在は駐車場になっている所に、か



る標柱もあります。「水道局」と書かれた横須賀市水道

つて「沼間ポンプ場」があり

ました。先の

「名越管路隧

道」と同じ昭和

6年に、送水

能力向上のため

に造られ、同

39年に使用中

止、同49年に

ポンプ場は撤

去されました。

敷地の東西に

ある門柱と北

側のコンクリ

ート塀がポン

プ場の名残を留めています。

この先水道みちは横須賀線を

くぐり、線路沿いを田浦方面

へと向かいます。



現在の沼間ポンプ場跡地（左）と、かつての沼間ポンプ場（右）
（ポンプ場の写真は『豊かな水へのあゆみー横須賀市水道施設写真集ー』より）

逗子の水道

「水道みち」が完成したものの旧海軍のものであり、逗子の人々は「水道みち」を通る水を利用していません。逗子の水はどのような供給されているのでしょうか。

昭和初期、逗子にはまだ水道がなく、井戸水を使ったり、飲料水を買ったりしていました。しかし、水質は悪く量も不足しており、良質の水を得るためには大規模な水道設備が必要でした。そこで昭和4年、逗子と葉山を中心に三浦半島・湘南一帯の16町村で県営水道期成同盟が組織され、昭和6年に相模川を水源とする県営水道の敷設が決まりました。敷設工事は昭和8年に着工、昭和10年に完成し、

逗子にも水道が開通しました。

現在、県営水道は相模川と酒匂（さかわ）川の二ヶ所を水源とし、逗子市を含む県内の12市6町に給水しています。逗子市の水道の水源は相模川です。綾瀬と寒川にある浄水場で浄化された後（ただし現在、寒川は水道管取換え工事中）、市内にある9つの配水池を通じて各所へ送られています。

* * *

戦後、軍港水道は横須賀



市のもとなり、そこを通る水は、横須賀市民に提供されてきました。逗子の「水道みち」を含む半原系統の水道施設は、設備の維持が困難などの理由で平成19年に送水が停止され、水道設備としては平成27年に廃止になりました。

《主な参考資料》

- 『横須賀軍港水道 半原系統水道みち－関連遺構分布図－』横須賀建築探偵団「横須賀軍港水道 半原系統水道みち」踏査・活用プロジェクトチーム編・刊 2015 Z 51.S ㊦
- 『横須賀市水道史』横須賀市水道局編・刊 1973 Z 51.S ㊦
- 『豊かな水へのあゆみ－横須賀市水道施設写真集－』横須賀市水道局編・刊 1983 Z 51.S ュ
- 『藻塩草－炉辺談話－』藤原楚水著 省心書房 1973 ZF 914.6 ㊦
- 『三浦半島の文化 第24号』三浦半島の文化を考える会編・刊 2014 Z 05.B ㊦ 24 他
- 『逗子市史 通史編』逗子市編・刊 1997 Z 21.Z ㊦ 他
- 『明治大正昭和年表－逗子の三代史－』手帳の会編・刊 1990 Z26.Z ㊦ 他